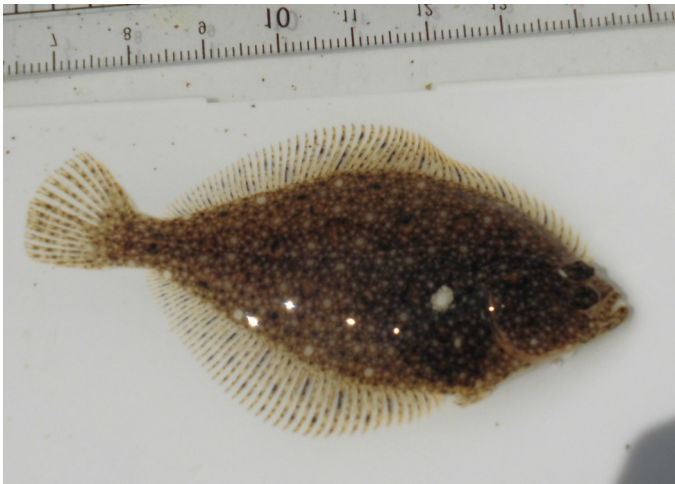


数が少ない稚魚

■採集個体は2匹のみ

今回の調査では、河口域で1匹、水門入り口で1匹と計2匹しかイシガレイ稚魚を採集できなかった。採集した稚魚の全長は、河口域の個体が8.0cm (Fig.1) , 水門入り口の個体が8.5cm (Fig.2) であった。大きさはすでに外海へ移動してもおかしくないものである。



(Fig.1 河口で採集した稚魚)



(Fig.2 水門付近で採集した稚魚)

数が少ない原因の可能性は2つ考えられる。1つ目は、すでにイシガレイが外海へ移動したことである。今回採集した個体はすでに十分大きい。今年は稚魚の成長が早かったため、すでに多くの稚魚は外海へ移動した可能性が考えられる。七北田川河口では、多くの人が釣りの餌にするためのイソシジミ (採集している人は「ひらがい」とよんでいた) を採集していた。イソシジミはイシガレイ稚魚の重要な餌である。たくさんの方が採集に来るほど多くのイソシジミがいるため、豊富な餌の影響で成長が早かった可能性がある。また、冬の気温が高かった影響も考えられる。

もう1つの可能性は、稚魚の移動もしくは死滅である。これまでの調査で、イシガレイ稚魚は底質が砂地の場所に生息していた。今回の調査では、河口域の底質が砂ではなく土・泥になっていた。そのため、稚魚が移動もしくは、死滅してしまった可能性も考えられる。

■カニも動き出す

気温が上がり、カニの仲間も活発に動き出している。蒲生干潟全域でコメツキガニが見られる。また、日和山下の湿地ではチゴガニ (Fig.3) , ヤマトオサガニ (Fig.4) の観察された。アシハラガニ (Fig.3) も広い範囲に生息している。



(Fig.3 チゴガニ アシハラガニ)



(Fig.4 ヤマトオサガニ)